

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立大宮武蔵野高等学校)

目指す学校像	1 高い目標を持ち、自らの夢を実現できる生徒の育成 2 社会で活躍できる生徒を育て、地域が誇れる学校
--------	---

重点目標	1 生徒一人ひとりの学力の向上を目指した授業改善の取組 2 第一志望実現に向けた系統的な進路指導の確立 3 基本的生活習慣の確立とマナーアップ、生徒の自主的活動の一層の充実 4 地域に信頼され、地域に貢献できる生徒の育成
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 1 7 日 現 在)			実 施 日 平 成 3 1 年 2 月 8 日	
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等
1	【現状】 ・チャイム着席は概ね定着してきた。 ・新しい手法の授業に取組む教員も見られる。 【課題】 ・「分かる授業」を徹底し、生徒の学力向上を図る。	分かる授業を目指し、生徒の学習意欲を高める	①授業公開週間を活用し、授業の取組について意見交換を行う。 ②生徒対象アンケートを実施して学習状況を把握し、総学やLHR、三者面談で指導する。 ③各種補習や検定試験等の充実にむけた支援を行う。	①各教科で授業改善に係る取組状況。 ②生徒の学習習慣の状況や定着度。 ③各種補習授業や検定試験等の取組状況と成果。	○ほぼ達成できたが、教科間の連携による継続的な取組が課題。 ①一斉授業による基礎・基本の徹底と生徒の主体的な学びを促す授業の併用により、各教科で授業改善が促進された。 ②授業を通して基礎学力が向上したと感じている生徒が約8割。1年生の図書館利用率が飛躍的に増加した。 ③各種検定試験受験者が増加(延べ60人以上)し、成績優良者数が不振者数を上回った学年もあった。	A	①学力上位生徒に対する応用的な課題の提示、更に生徒が内容をより深く理解できるよう工夫を検討する。 ②継続的な学習習慣を身に付けさせるために課題を課す等、学校全体の組織的取組を検討する。 ③補習授業等における教科内の連携を深める。	・継続的な家庭での学習習慣化を身に付けさせるため、定期的な宿題があっても良いのではないかと。 ・国語や英語の授業で最初に帯活動として小テストをやっていたのが効果的なので継続してもらいたい。 ・学校で自習できる環境も作っていただくと助かる。
2	【現状】 ・例年、約75%が進学、約10数%が就職で推移している。 【課題】 ・受け身でなく主体的に進路情報を収集させる。 ・キャリア教育、勤労観を育てる。	系統的、組織的な進路指導・キャリア教育の取組	①進路面談、三者面談等を通して進路に対する意識向上と具体的な行動を促す。 ②進路資料室、「進路のしおり」を積極的に活用させる。 ③3年間を見通した進路ガイダンス・講演会を計画的に実施する。	①生徒の進路実現状況。 ②生徒の主体的な情報収集状況や進路室活用状況。 ③生徒の進路意識の変容や取組状況。	○ほぼ達成できたが、学校全体の共通理解が課題。 ①第3学年83%進学希望者のうち91%が12月中に決定。看護専門学校8名合格、学校紹介就職希望者は全員内定し、一人ひとりの進路希望を実現できた。 ②オープンキャンパスに参加させ主体的な取組を指導、進路室の活用も促進された。 ③第2学年で進路講演会を8回実施し、ワークシート等からも進路意識の高まりが見られた。	A	①進学希望では志望校決定に至る過程、就職希望では社会人になる意識の涵養を重視する。 ②希望進路に向けての自主的な情報収集、文章表現力の鍛錬に継続して取り組ませる。 ③指導体制の維持と学校全体の共通理解が不可欠である。	・本校での学年順位は定期考査等の結果で分かるが、他の高校の生徒と比較してどれくらいの学力にいるのかが客観的に分かる情報を提供(模試等)してもらえると良い。
3	【現状】 ・交通指導により、登下校中の大事故はほぼ無くなってきた。 【課題】 ・規範意識の更なる向上とマナーアップを図る。	基本的生活習慣のさらなる確立	①日頃の挨拶、言葉遣い、マナーに対する組織的な指導を行う。 ②毎月の遅刻指導と定期的な頭髪服装指導を徹底する。 ③アルバイト許可制の共通認識を図り、指導を徹底する。	①各取組の実施状況。 ②遅刻指導対象者数の状況。 ③アルバイト許可制の取組状況。	○ほぼ達成できたが、他者との関わり方の指導を全体で共有することが課題。 ①通学時のマナーについて苦情が数件あったが、迅速な対応により改善が見られた。 ②管理職遅刻指導数は減少(前年度延べ7人→5人)、服装頭髪指導は概ね指導の2週間後には改善された。 ③許可制の取組は良好、成績不振者に対するアルバイト「許可取消」を導入した。	A	①年度当初から「通学マナー」「言葉遣い」「挨拶・返事」指導を徹底する。 ②学校以外の場においてもマナーが守られるよう、更なる規範意識の向上を促す。 ③アルバイトを必要としない生徒に部活動等への参加を促す。	・交通ルールマナーや学校の規則を守ること等、生徒会からの働きかけもあると思う。同世代からだ他の生徒にも響くのではないかと。
3	【現状】 ・近年、部活動加入率は7割以下である。 【課題】 ・部活動の加入率を高め、継続した活動を推進する。 ・生徒全体の学校行事への積極的な参加を促す。	生徒の自主的活動のさらなる充実	①部活動推進委員会と特別活動部の連携を強化する。 ②委員会の活性化、生徒会本部役員への支援を促進する。 ③さいたま西分校との連携、共同学習(職業体験)の充実を図る。	①部活動の継続状況。部活動体験会実施状況。 ②委員会の果たした役割、活動状況及び行事実施状況。 ③さいたま西分校との交流状況及びその成果。	○ほぼ達成できたが、部活動等の統廃合を検討することが課題。 ①部活動加入率は年度当初67.6%→62.4%(11月)(昨年度53.8%)。部活動体験会の参加者数は約100人。チアダンス部全国大会、テニス部県大会出場。 ②学校説明会における生徒会本部役員の貢献度は高く、各種委員会活動も計画的に実施できた。 ③さいたま西分校との交流状況は計画どおり実施。生徒会同士の交流を開始した。	A	①部活動を退部した生徒の指導や部活動オリエンテーションの方法を工夫する。 ②生徒会組織の改定や部活動等の統廃合を検討する。 ③分校連絡協議会を定期的に開催できるようにする。	・H29年度の大学入学共通プレテストの国語の試行問題は、「生徒会の規約」が題材として出題され、それぞれの立場を整理した上で根拠を基に説明をする問題であった。学校生活全般、部活動や交通ルールの課題等に生徒会や生徒が積極的に関わることで、大学入試問題にも結び付けられる可能性もある。
4	【現状】 ・HP等の情報発信や地域との交流を継続的に実施している。 【課題】 ・保護者、地域、中学生への積極的な情報発信を通して信頼を高め、生徒募集に繋げる。	情報発信のさらなる充実	①全職員へのHP更新方法の周知を行う。 ②学校説明会・中学校訪問等の方法を見直し、生徒募集を円滑に行う。 ③生徒の地域行事参加や交流を継続して行い、地域との連携を深める。	①HPの掲載・更新状況。 ②学校説明会等参加者数や実施状況。 ③地域行事や交流の状況、関係者の評価。	○概ね達成できたが、本校の良さを更に発信していく工夫が必要。 ①部活動顧問のHP更新回数が昨年より増加、HP閲覧者は14万人を超えた。 ②学校説明会は、計画どおり円滑に行うことができ、中学生とその保護者の参加数は、延べ約1,000人を超えた。 ③部活動・有志団体が中心に地域との交流を年3回実施。各学年、学年通信を定期的に発行し保護者との連携を図った。	B	①HP更新を継続的に行い、本校の特色をわかりやすく発信する。 ②生徒募集に向けて、学校案内やパンフレットの見直し・改善を検討する。 ③生徒・教職員による人的交流と学年通信等により、地域・PTA・保護者との連絡・連携を更に深める。	・地域貢献の観点で、「西区ふれあいまつり」の運営ボランティアにも高校生が参加してもらえるとありがたい。「馬宮地区ふれあいコンサート」を大宮武蔵野高校でまた開催してもらえるとありがたい。 ・学校自己評価システムシートについては、もう少し、数字の達成評価を入れた方が良いと思う。